

CT診断の普及を目指して

十河がゆく

十河 基文 (そごう もとふみ)

大阪大学歯学部招聘教員（歯科補綴学第二教室）

株式会社アイキャット 代表取締役 CTO

研究開発や臨床の傍らCT診断普及を目指して東奔西走中



訪問先

神田駅前平野歯科クリニック
平野滋三先生（東京都ご開業）

（題字：小宮山彌太郎先生）

さて、今月の「十河がゆく」は久しぶりの医院訪問です。8月から販売を開始したiCATの歯科用CT RevoluX（レボルクス）を、関東で初めてご導入いただいた平野滋三先生の診療所にお邪魔しました。

平野先生は大学をご卒業後、全部床義歯の教室に残られ、退職されるまでは准教授をなさっていました。そんな補綴をご専門とされてきた先生が、歯科用CTをどのように活用されているのかお聞きしたいと思います。

エンドの症例

十河：十河の大学の1年上に双子のもう一人の先生がいらっしゃるので、平野先生とは初めてお会いした気がしません（笑）。今日はどうぞよろしくお願いします。

さて、この夏RevoluXをご導入されて臨床にどのようにお使いになっていらっしゃるのかお教えいただけないでしょうか。

平野：私は補綴出身なのでインプラントの診断にはもちろん利用しています。しかしそれ以上に、歯科用CTの有効性を感じるのはエンドです。

パノラマでは口蓋の陰影で見辛いですが、右上4番の根治の症例を示します（図1）。3ヶ月間、マイクロスコープを使って根治を続けても打診痛が消えず困っていました。そんな中RevoluXを導入

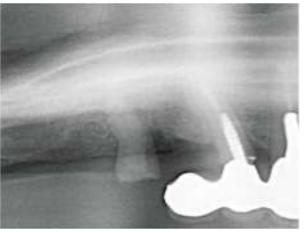


図1：パノラマで「根治は可能だ」と判断し、右上4番の根管治療を行った。

したので、早速CT撮影を行いました。すると、想像を絶する大きな根尖病変が確認できました（図2）。なかなか治らないのも納得できます。3ヶ月間、症状の改善が見出せなかつたため、CT画像を今回見て抜歯と判断しました。また、患者さんにもCT画像を用いて説明をすると、これまでにない理解を示していただいた気がします。

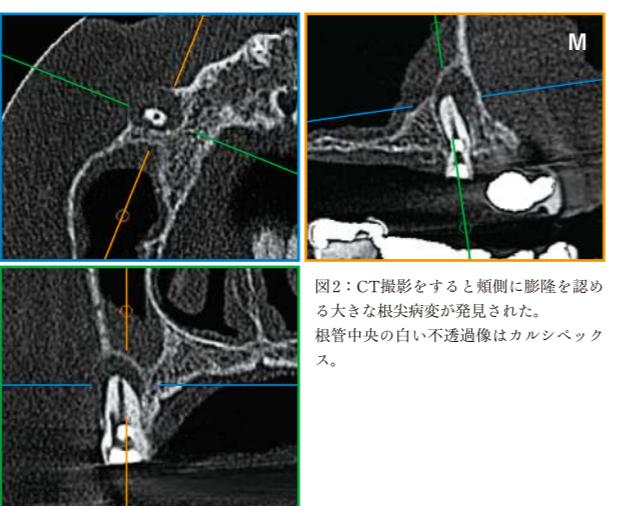


図2：CT撮影をすると頬側に膨隆を認める大きな根尖病変が発見された。根管中央の白い不透過像はカルシベックス。

CT撮影はこれまでインプラントの診断のために、近隣の医科用CTでの経験しかありませんでした。しかし、こうして歯科用CTを自院に設置して、患者さんにわざわざ出向いていたくことなくすぐにCT画像が診れる有用性を実感しました。

上顎6番近心根の第二根管を発見

平野：2つ目の症例は、マイクロスコープで根治を行い、その後補綴処置まで完了した左上6番です。ある日、突然同歯に痛みを発症しました。パノラマを見てわかつていただけるかもしれません。が、一応自分では満足のいく根充をしたつもりでした（図3）。しかし、当時の根治を思い出すと、近心頬側根が扁平しているためマイクロで第二根管を探したものの発見できず根充に至ったことを思い出しました。今回、痛みの原因がわからないため、何か病変を発見できないかと思いRevoluXでCT撮影を行いました。



図3：自分では満足した右上6番の根充であったが、その後疼痛を発症。

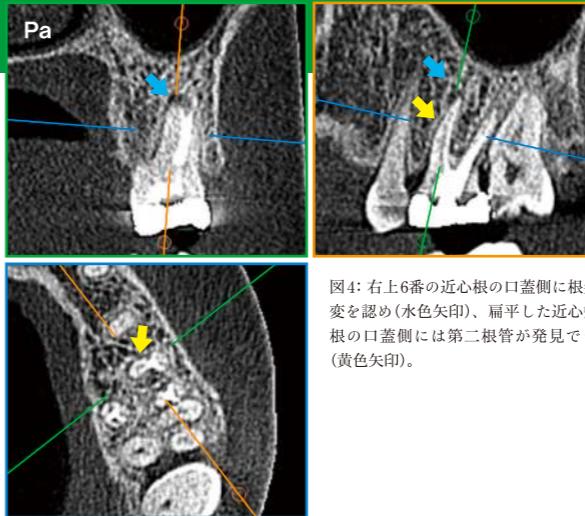


図4：右上6番の近心根の口蓋側に根尖病変を認め（水色矢印）、扁平した近心頬側根の口蓋側には第二根管が発見できた（黄色矢印）。

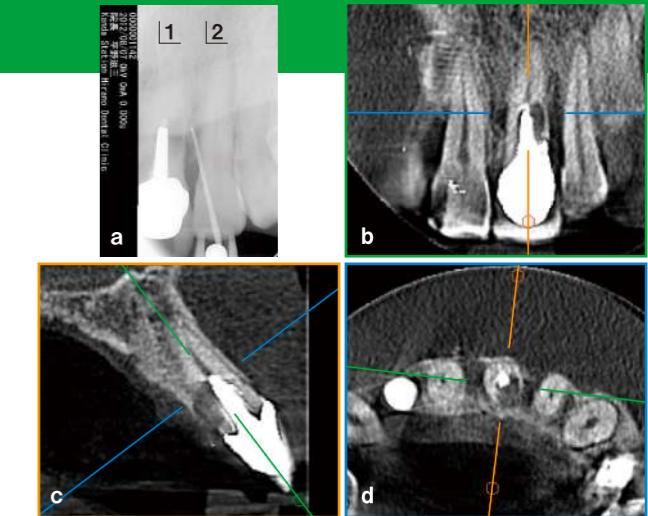


図5：ポストの先端付近に透過像が認められ側枝の根尖病変を疑った（a）。しかし、歯科用CTで見ると根尖病変ではなく根の内部吸収とわかった。

すると、近心頬側根の口蓋側寄りに根尖病変があり（水色矢印）、さらに根管をよく診ると扁平した近心頬側根の口蓋側に第二根管（黄色矢印）が認められました（図4）。そこで、CT画像を参考に今度は確信を持って対象箇所を脱灰すると第二根管が見つかり、根治によって疼痛は完全に消失しました。

高精細な画像が診えるRevoluXの有効性を痛感しました。

頬舌側的な状態を含む3次元の把握

平野：最後の症例は唇側に瘻孔があり、口蓋側のポケットが6mm以上存在する左上1番です。瘻孔にガッタバーチャを挿入してデンタル撮影すると尖端は左上1番の歯根中央部を示し、歯根に隠れて薄っすらと黒い透過像が見えたので側枝による根尖病変を疑いました（図5a）。しかし、3次元的な状態がまったくわからぬいためRevoluXでCT撮影を行いました。

すると側枝による病変ではなく、ポストを囲む形で想像以上に大きな内部吸収が認められました（図5b～d）。因果関係はわかりませんが、頬側の瘻孔と口蓋側のポケットと、この内部吸収とは何らかの影響があるよう思えます。

一方から見たデンタルとは異なり、CTは立体的な3次元構造を把握できるため非常に有効であることを実感しました。また今回、ポストコアという金属の近傍であるにも関わらずここまで診えたのは、やはり金属アーティファクト除去技術を特徴とするiCATのGIDORAの優れた再構成技術のおかげだと思います。

RevoluXは今後の私の歯科臨床の中で、これまでにない新たな世界を診させてくれる気がしています。

十河：補綴ご出身の平野先生が補綴以外のエンドで「マイクロスコープ」と「歯科用CT」をうまくご活用されているのをお聞きし勉強になりました。今日はありがとうございました。